

平成 25 年 7 月 2 5 日



しほり
森づくり集団「**葉**」事務局通信 Vol. 58 号

【今月のお知らせ】 【今月の活動報告】 【今月のレポート】
【次回の活動予定】 【お知らせ/募集】 【編集後記】



アカヤマドリ（いぐち科）2013.7.7 所沢下富

【今月のお知らせ】

去る 7 月 2 1 日（月）に、ふじみ野市『市民憩の森』オープニング式典が開かれ、土金・武田・緑川・小林が参加しました。

当日は晴天にも恵まれ、多くの市民の皆さんが参加されました。高畑ふじみ野市長や福井聖路加看護学園理事長など多くの方々から挨拶がありました。

「葉」からは土金代表理事が『市民憩の森の自然について』として、植生調査の結果や今後の保全活動のあり方などについて、短い時間でしたがスピーチを行いました。

（次回 8 月号で、その内容を掲載する予定です。）

事務局長

【今月の活動報告】

7月7日（日） 10:00～

下富第2フィールド

参加者 / 武田、中島、杉山、吉田ひ、吉田あ、緑川、小林（敬称略）

活動担当者 / 土金

午前中は、前回に続き、下富第2フィールドの下刈りを実施しました。猛暑の中、熱中症にならないように水分補給と休憩をとりながら、汗だくで作業をしました。



昼休みに環境フェア（会場、実施内容等）、憩いの森（子ども大学の企画、整備方針等）について打ち合わせました。

フィールドに行く途中、大きなアカヤマドリが生えていました。トンボソウ、ヒメヤブラン、ネジバナも花を咲かせていました。



午後から、第2フィールドと第1フィールド（駐車スペース周辺）の2班に分かれて作業をしました。

里山の可能性

—北海道大学・苫小牧研究林を散策して—

報告者：豊島

北大・苫小牧研究林を散策してきました。(<http://forestjo.exblog.jp/19948335/>)
動機は、同研究林のかつての所長であった石城健吉著『森林と人間 ある都市近郊林の物語』(岩波新書 2008) を読んで興味を持ったからです。

数時間の単なる林道歩きでしたが、多少感じる場所もあったので下記モノしてみます。

歩いてみての一番の印象は、明るく、きれいな3層構造の雑木林であったということです。



ミズナラを中心に、ハリギリ、シナノキ、ハルニレ、ハウノキ、アオダモ、イタヤカエデ、ヤマザクラなどの高木（高層）、カエデ類や成長途中の高木などの中木（中層）、ウツギなどの灌木、シダ類などの草本、高中木の実生などの低木（低層）。

この森は、上記の石城氏著によると、適度な密度管理のための択伐（材として販売）、枯損木、傾斜木、あばれ木や、中低木の除伐によって成立したもののようです。

特に印象的だったのは、中下層に高中木の实生が混じり、天然更新が期待できるということでした。この森を仕立てた石城氏の考えに沿って今後も老大木中心の択伐（7年周期？）が続けられれば、自動更新は進むものと思われま。

以下、この散策を通じて触発された、今後の「里山の可能性」についての愚考です。ご感想・ご意見をいただければ幸いです。

里山の可能性

・里山の崩壊の究極の原因は、「利用されなくなった」に尽きる。かつてのように利用されなければ、里山の本当の復活はあり得ないだろう。

かといって、以前の薪炭林のような利用が再びありうると思えない。今後の雑木林の真の利用がありうるとすれば、エネルギー危機や、地球温暖化が抜き差しならぬようになって、バイオマスにも頼らざるを得なくなる時だろう。必ずや、その時は来るはずである。

といっても、その場合でも薪炭林の形ではなく、ペレットなどの原料としての材の活用が現実的であろう。

・これは将来に本当に里山雑木林の材の活用の必要性が出てきた時の話であるが、その場合でも、里山の維持管理は、かつての薪炭林のような皆伐、萌芽更新といったサイクルはその後の人手、技術といった点からも現実的ではない。

後に述べる理由から、択伐や除伐による維持管理がこの面からも成り立つのではないだろうか？

・そうした材としての利用（経済的価値・役割）も期待されるものの、今後の里山の果たすべき役割は、より多面的なものとするべきではないか？

ここで多面的とは、環境の森（水源涵養、土壌保全、炭素吸収など）、野生の森（生物多様性保全、遺伝子保全）、憩・学習の森（一般生活者にとって憩い・学びの場となりうる、少なくとも不快、恐怖の対象にならない）の並立であろう。

・そうした里山の可能性を考えたとき、その仕立てや維持管理はどうあるべきか？

たとえば今、手入れのお手伝いをしている、苫小牧研究林に樹種構成が近いと思われる南草津の里山を例に考えてみたい。

仕立て

- ・林床を独占し、林床草本、木本の実生を阻止し、自動更新を妨げるササ類の除去
- ・皆伐はしない（皆伐は、後が大変。外来種の侵入の危険性）
- ・枯損木、半枯損木、傾斜木、暴れ木の除去、混みすぎた木の除伐（高木で林冠を閉鎖しない）
- ・残す木の選抜基準
 - ・真直ぐな樹を残し、樹冠の枝張り、地下の根張りの空間を与えて成長力を集中させる。
 - ・樹種の多様性保存—地域の在来種の、できるだけ多くの樹種を残すようにする。（ペレット原料は、それほど樹種を選ばない）
 - ・林床への日照、森の明るさ、季節感のある景観の観点から、できるだけ落葉樹を残す。
 - ・貴重な大径木も残す（将来の経済的価値？ 将来は択伐による利用と若返り更新）。
 - ・キツツキ類の棲家、餌採取のため枯損木も危険のない範囲で一定の密度で残す。

その後の維持管理

- ・定期的な択伐、除伐（密度管理）
- ・将来の更新のための実生木の選抜育成

結果としてのメリット

・石城著『森林と人間』によれば、択伐、除伐による適度な密度管理によりヘクタールあたりの木材蓄積量は確実に増大するというデータが得られているという。それは炭素固定、将来の材の収穫という点から見ても有意義であろう。

・いうまでもなく、そうした森は、環境の森、野生の森、憩・学習の森としても優秀なものともなろう。

・また一度仕立てれば、維持管理の作業に人手も省力、平準化できるであろう。

【次回の活動予定】

8月4日（日）10：00～
下富フィールド

第2．3フィールドで7月に続き、下刈り作業を実施します。
集合場所は、第1フィールドです。
熱中症・防虫対策のうえ、ご参加ください。

参加希望者はメンバーメールにてお知らせください。

【お知らせ/募集】

参加者募集のお知らせ

森づくり集団「^{しほり}栞」は、毎月第1週日曜日に所沢下富のくぬぎ山で里山の手入れをおこなっています。

会員のほとんどが森林インストラクターの資格を取得し、初めての方には危険防止のための注意事項、作業方法を丁寧にご指導いたします。

私たちは10年以上にわたり目的に応じた森の手入れをして、経過を観察し新しい発見、新しい取り組みを楽しんでいます。

また、植物の観察会、子供のための観察会、森の手入れ研修会などを企画計画していますので、興味のある方はぜひご参加下さい。

連絡先は下記事務局まで

【編集後記】

今年の梅雨明けは、関東地方で7月6日、例年に比べ15日も早かったとのこと。その後のテレビなどでは、『連日の猛暑』との報道が続いた。

一転して7月の半ばに入ると、もどり梅雨になったかのように冷夏がおとずれた。そして、関東地方にも毎日のように雷雨が発生した。

「子どもの頃のようにシトシト降る雨ではなく、まるで熱帯地方のスコールのような降雨」と言っていた吉田さんの言葉に、近年の天候の異常さを強く感じた。

皆様、天候の急変や体調の維持には十分お気を付け下さい。

久しぶりに『今月のレポート』を掲載しました。投稿を快諾頂いた豊島様に感謝いたします。

秀

植物の葉

今回はお休みです。

あ

森づくり集団「葉」事務局

アドレス info@mori-shiori.sakura.ne.jp

ホームページ <http://mori-shiori.sakura.ne.jp/>

事務局 緑川睦子